

第8回災害リスク管理に関するジョイント国際シンポジウム (防災教育、阪神・淡路大震災からの復興、気候変動下の災害適応策)の報告

災害リスク管理に関するジョイント国際シンポジウムが、2014年度日本建築学会大会「近畿」(神戸大学、兵庫県神戸市、9月12-14日)の期間中に約60名の参加をもって開催されました。本シンポジウムは、日本建築学会・土木学会・日本工学会・世界工学団体連盟(WFEO)の共同主催、日本学術会議の協賛によるもので、日本に加えて海外(台湾、インド、イスラエル、ペルー、コロンビア)から防災・減災・防災教育などの研究・調査に関わる8名の研究者・技術者が講演者として招かれました。本シンポジウムはプログラム(下記URL参照)に従い、日本建築学会会長の吉野名誉教授(東北大)より過去の災害を参考にした未来の災害への備えの重要性が強調された開会挨拶に始まり、インド各地で発生する自然災害の実例(Basa会長-インド工学会)、台湾の防災コミュニティの形成・合意過程(劉教授-暨南國際大)、同じく台湾の地方政府における災害管理の実施能力の評価(馬助理教授-銘傳大)、バングラデシュの防災教育におけるコミュニティ活用事例(斉藤主任研究員-兵庫県人と防災未来センター)、東日本大震災の巨大津波災害から学ぶ有効な減災方法(Mas助教-東北大)、地震災害からの効果的・効率的復興過程の研究(Prof. Lavan-イスラエル工科大)、自然災害に起因する化学物質汚染被害の事例(Prof. Cruz-京大防災研)、市民の防災意識を高めるための建築設計の事例(古谷教授-早稲田大)をそれぞれ講演して頂きました。

質疑応答では、アジア各国の自然災害への適応策の事情も交えて活発な意見交換を行いました。特に、本年のシンポジウムは1995年の阪神・淡路大震災の被災地で開催されたため、斉藤主任研究員より当時の大震災の様相とその後の復興について簡単に説明して頂きました。最後に、WFEO災害リスク管理委員会(CDRM)委員長の小松特命教授(九大)より、自然災害におけるリスク管理の今後の取り組み、及び防災・減災に関わる人々の連携の重要性を強調され、引き続き石井前 CDRM 委員長より、来年度開催予定の世界工学会議(WECC2015@京都)の案内が行われてシンポジウムを終了しました。なお、本シンポジウム実行委員会では主催関係者の挨拶文と講演者の論文を掲載した要項集を作成しました。以下のウェブサイトでダウンロードが可能です。

(www.wfeo.net/stc_disaster_risk_management_meetings/)

本シンポジウムは、防災に関して多面的な物の見方・考え方を提供しています。来年度は世界工学会議のWECC2015@京都(www.congre.co.jp/wecc2015/)とジョイントの形で開催される予定です。

【註】

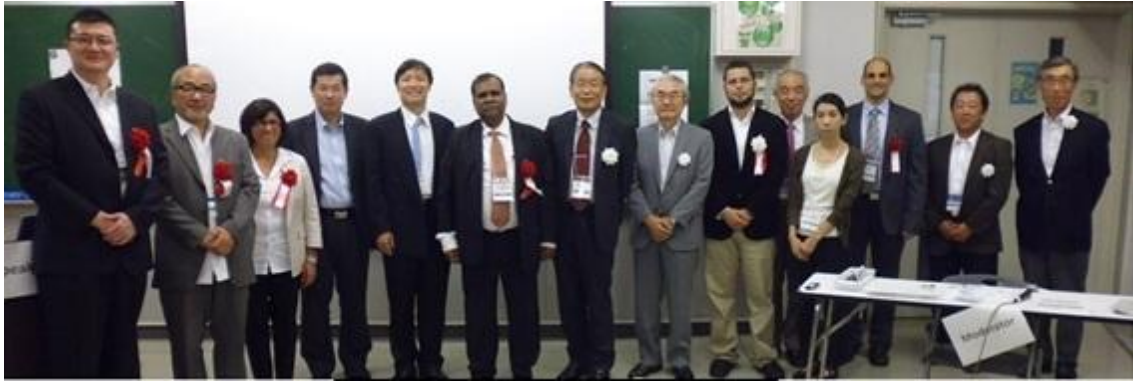
- 1) WFEO とは1国1会員制の工学専門集団で、工学を通して世界経済の安定・社会発展を目指す NGO です。CDRM は WFEO 下部組織の災害リスク管理に関する委員会です。
- 2) シンポジウムプログラム：<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/69>



講演の様子



質疑応答の様子



シンポジウム終了後の集合写真

【記：WFEO 災害リスク管理委員会事務局幹事補 木村延明】